

第三編 業務別に観たる職業婦人

一七八

金額	人員	割合
七圓以下	一〇三	五・八〇
一〇	二〇三	一・四三
一五	九七	五・四六
二〇	四二	二・三六
三〇圓以下	一九	一・〇七
三〇 超過	二	〇・一一
外に貯蓄の無きもの	二二〇	—

其の他の諸雑費も貯蓄と同様五圓までの支出が大多数であるが、そのうち一圓以上三圓以下の者が最も多く一千六百三十七人中の四割七分までがそれである。

其の他の雑費

金額	人員	割合
總數	一、六三七	一〇〇・〇〇%
一圓以下	二二八	一三・九三
三	七七六	四七・四〇
五	三九九	二四・三七
七	一一二	六・八四
一〇圓以下	八二	五・〇一
二五	三八	二・三二
二五 超過	二	〇・一三
外に支出無きもの	五四	—

第三節 外交員

會社、銀行に働く智能的職業婦人として事務員、女店員とその活動分野を異にし、直ちに社會の第一線に立つ者に婦人外交員がある。

婦人外交員は勸誘員、集金員、販賣員等に分れ、保險乃至は定期積金加入の勸誘、月掛金の集金、或ひは書畫、化粧品、其の他商品の販賣等婦人外交員の進出はその分野を擴大し漸次その數を加へつゝあるものである。

本調査に現はれた婦人外交員の數は僅か十九人であり、その勤務先は保險會社と貯蓄銀行に限られてゐるが、外勤婦人の一典型として以上その略述を試みて見よう。

一身 上

(一) 就職の目的及び方法——婦人外交員は事務員、店員等の如く二十歳前後の妙齡婦人が少い爲め、その就職の目的の如きも嫁入仕度又は實社會經驗の爲めといふが如きは皆無で、家計の補助にあらざれば自己の生活維持か、子女教養乃至は將來への貯蓄の爲めに夫婦共に働くといふ眞剣なる生活戦の自覺者が多い。

その就職方法の如きも十九人のうち八人までは募集廣告に依るもので、他の職業婦人の一般とその経路を異にしてゐる。

就職の目的	人員	就職の方法	人員
總數	一九	總數	一九
家計補助の爲め	一三	親戚知人の紹介	八
自活の爲め	四	職業紹介所の紹介	三
貯蓄の爲め	一	募集廣告	八
子女教養の爲め	一		

(二) 年齢及び配偶關係——婦人外交員の年齢は十九人のうち十七人までが三十歳以上の人達で、その初めて職業に就いた年齢の如きも亦同様である。

従つて婦人外交員には未婚者が少く有夫者にあらざれば生別者か、死別者で世路の辛酸を嘗めた者が多く、中には夫の死後を老後の安定の爲めに働く五十路を過ぎた老婦人もある。

また子供の有無を見ると有夫者、生別者には子供の無い者が比較的多く、死別者の中には四人の子女を抱へてゐる者が二人ある。

年齢別	人員	配偶関係	人員
總數	一九	總數	一九
二〇歳以下	一	未婚者	三
二五	一	既婚者	一六
三〇	一	有夫者	八
三五	六	生別者	二
四〇	五	死別者	六
五〇	四		
五〇 超過	二		

(三) 教育程度——婦人外交員十九人に就いてその教育程度を見ると、高等女學校卒業又は中途退學の者が七人で一番多く、高等小學校卒業者六人、専門學校程度の教育を受けた者が三人、實業補習學校又は特殊の技藝學校に學んだ者が二人、尋常小學校のみの者が一人といふこととなる。

これによつて見ると婦人外交員の教育程度は事務員、店員と同様に高等小學校又は高等女學校程度の教育を受けた者が

普通と謂へるが婦人外交員はその業務が事務員、店員等と違ひ、街頭の第一線に立つものであり、殊に勧誘員、販賣員にあつては、その成績がその人の活動力と社交性によるものであるから、假令學歴の低いものでも才能の如何によつては充分の進出を見ることが出来る。

二 勤務

(一) 初任給及び勤続年限——勧誘員の収入はその契約の出來高によつて不定であるが、今勧誘、集金を併せてその初任給を見ると三十一圓から四十圓の者が大多數で十三人、二十一圓から三十圓の者が三人、四十一圓から五十圓の者二人、二十圓以下の者が一人である。

これを銀行と保險會社に分けて観ると銀行に勤務する者は十人で、その職務は集金が主で併せて勧誘を行ふ者であるが、その初任給は三十一圓乃至四十圓の者が殆んど全部である。

保險會社に勤務する者は銀行と同じく集金員と勧誘員とであるが、初任給の最高は五十圓(勧誘員)で最低が十六圓五十二錢である。

勤続年限は比較的短い者が多く一年以下の者が九人、二年以下の者が六人、三年以下の者が一人で長い方では六年半の者が一人、八年一、二箇月の者が二人である。

(二) 就業時間及び仕事が身體に及ぼす影響——就業時間は外勤の關係上必ずしも一定ではないが、八時間までの者が大部分である。

而して之等外勤婦人の健康状態はどうかといふと十九人のうち十八人までは影響なしといふ者で、身體の疲勞といふのが一人のみである。尤も外勤に従事する婦人はその就職の當初に於いて身體の壯健といふことが内勤の者よりも更に重要

なる要件の一つでなければならぬ。

三生 計

(一) 収入——収入の主なるものは勿論給料である。十九人の婦人外交員に就いて見ると、最高給料は六十二圓、最低給料は二十一圓七十錢で何れも保險會社の外交員であるが、普通のところでは三十圓以上五十圓以下でこれを細別すると三十二圓から三十五圓が五人、三十六圓から四十圓が六人、四十一圓から五十圓が四人で十九人の平均額は四十圓五十八錢といふこととなる。

また手當としての収入ある者十一人に就いてその金額を見ると、保險契約募集に従事する者の中には月額五十圓以上の募集手當を得てゐる者もあるが、手當としての収入は概して十圓以下であつて、三圓以下の者が三人、三圓以上五圓以下の者が二人、七圓以上十圓以下の者が三人である。

賞與としての収入は、十三人のうちで月額十一圓から十五圓までの者が九人で、六圓から十圓までの者が三人、五圓以下の者が一人といふ割合である。

勤務關係以外の収入としては家庭其の他よりの扶助と其の他の雜収入であるが、この収入あるものは各二人のみで、前者にあつては四人の子女を抱へる寡婦と失業の夫を持つ妻が何れも三十圓の扶助を受けて居り、後者にあつては有夫者で三圓以下の者が一人、子供のない寡婦で五十圓以上の者が一人である。

以上述べた婦人外交員の諸収入を綜合してその収入總額を見れば、四十圓以上の者が多く、四十一圓から五十圓が七人、五十一圓から六十圓が二人、六十圓を超へる者が七人である。

(二) 支出——支出の中で婦人外交員の被服費は平均五圓五十錢で事務員と店員の中間であるが、その平均給料に對する

割合は一割四分で約五分の低率である。

本調査に於ける婦人外交員は中年以上の者が多く、未婚者は極く僅かであるから、假令外勤による被服の損傷が内勤の者に比して大であるとしても、若い女性の多い事務員、店員等に比ぶれば、その俸給に對する支出割合が少いといふことは充分に背けるところであらう。

また食費及び住居費としての支出ある者は十九人のうち十人であつて、十五圓以下の者が三人で他は何れも三十圓以上であり、幾人もの家族を抱へてゐる者の中には百圓以上の支出をする者もある。

尙貯蓄について見ると、その人員は十二人中月額三十圓以上の者が二人、十圓乃至十五圓の者が三人、七圓以下の者が七人であつて、この平均額は十二圓九錢となり、平均給料額に對し割合は約三割を占め、仕立物検査員、家政婦、小使、炊事婦、守衛等と共に貯蓄割合の多い者の一つである。

第四節 婦人記者

婦人記者の職業は以上述べ來つた事務員、店員、外交員等と大いにその趣を異にし、充分の智識と才能を必要とし、その職業的分野が特殊の領域に限られてゐるので、婦人記者としての進出、成功には幾多の困難を伴ふことと言ふまでもないことであらう。

本市は我國文化の中心で新聞雜誌の刊行は全國に比類なき盛大を至して居り、婦人記者の活動も漸次顯著になつてゐるので、その數も相當多數に上ることは想像に難くないが、本調査に於いては僅か六人の婦人記者（新聞記者四人、雜誌記者二人）より回答を得たに止まるので一般的觀察の資料としては不充分であるが、またその一斑を窺ひ得られると思ふの

でこゝにその概略を述べることにした。

就職の目的は何れも自活又は經濟的獨立の爲めで、就職の方法としては先輩、知人の紹介による者が四人、學校よりの紹介による者、選抜試験による者が各一人である。

教育程度は専門學校の出身者が五人、高等女學校の卒業者が一人で、その年齢は何れも二十五歳以上三十五歳までの者である。

配偶關係では、三十五歳の生別者、二十五歳の夫及び子供ある者各一人を除いて、他は未婚者である。

初任給は四十圓の者が三人、五十圓の者が二人、六十圓の者が一人で現在の給料は最高が百七圓であるが、平均給料は六十四圓餘である。

勤続年限は八年半の者が最長で三年の者が二人、他は何れも二年以下の者で、勤務時間は必ずしも一定しないが、大體六時間から八時間である。

第五節 女

醫

女醫はその業務の性質上、社會的責務の極めて重大なもので、婦人の職業としては智能的にも、技術的にも最も専門的の教養を必要とし、醫師法に依つて一定の資格條件が定められてゐるので、この點は以上述べ來つた各種の職業とは自らの性質を異にしてゐるところである。本市内に於ける醫師の數は昭和四年末で四千二百五十八人であるが、このうち女醫は二百四十三人であつて、近來増加の傾向が著しいとは云へ、その將來は尙今後の開拓に残されて居り、婦人の職業としては最も高等にして有望なるものゝ一つといふべきである。



女醫の初任給その人の經歷技術の程度乃至は勤務先の異なるに従つて一様でないこと勿論ではあるが七十圓内外から百五十圓前後のところがあるが普通とされてゐる。

本調査に現はれた女醫の數は僅か二人であつて、その一人は生命保險會社に、他の一人は百貨店の醫務室に勤務するものであるが、會社、銀行、工場等にして多數の婦人従業者を使用する方面に於いて醫療的施設が充實すれば女醫の需要は益々増加するものといふことが出来る。また女醫の多くは私立の女醫學校を卒業した者で、前述東京市の女醫二百四十三人中百九十六人までは私立醫學専門學校の卒業者である。

本調査に於ける二人は何れも東京女子醫學専門學校卒業の有夫者であるが、その初任給を觀ると八十圓の者と百八十圓の者で、現在の俸給は百圓と百八十圓とである

第二章 技術的業務

第一節 タイピスト

タイピストは、智能的の婦人職業として最も普遍的な事務員といふものの中に含まるべきものである。けれどもその業務の性質が、一定の機械を持つてゐて特種な技術を要するものであるからして、自ら他とは區別して觀るべき必要がある。また社會的に云つても、タイピストといふものが婦人の職業としては尙新にして、智能的なものとしてはある意味の代表的なものとしてされてゐる。故にこのタイピストをば特に抜き出して考察する必要があるわけである。

タイピストには、歐文と邦文の二種がある。これには色々な點に於いて多少の相異があるけれども、こゝには便宜上一括して述ぶることとする。またタイピストの業務を觀るに、それは勤め先きによつて異なるわけだけれども、概してタイプライティング以外の雑用をも爲すものであつて、いはゆる秘書役をも務めるものが多いのである。

速記や書翰の整理等をなすものは良い方で、印刷や受付の様な事をなすものもあるといふわけである。



一 身 上

(一) 就職の目的及び方法——タイピストといへども事務員であるからして、その項に於いて述べられたる如く、やはり「家計補助」が一番多くて、全部で九百二十八人中、五百七十五人、即ち六割餘を占めてゐる。

タイピストの就職目的	
總 數	九二八
嫁入仕度の爲め	四四
家計補助の爲め	五七五
學費を得る爲め	一六
自 活の爲め	一九二
實社會經驗の爲め	一一
修 養の爲め	五一
其 の 他	三八

これを一般事務員と比較してみると、タイピストでは「嫁入仕度の爲め」といふのが「修養の爲め」よりも多くなつてゐる。また「學費を得るため」といふのが「實社會經驗のため」よりも多いといふことである。

何ういふ手筈でタイピストと爲り得るか。

まづそれには技術を習得しなければならない。そこで何處かのタイピスト學校を大概出てゐる。就職の方法としては、親戚知人の紹介といふのが第一位を占めてゐる。全體の半分以上である。その次が學校の紹介だが、これは事務員のとくと同様によく多い。女工や交換手は募集廣告、店員は職業紹介所が比較的によく多いといふのと較べるとこゝにも確かに特色があるわけである。

タイピストの就職方法

總 數	一、〇二八	募集廣告	六〇
親戚知人の紹介	五六二	職業紹介所	一〇
學校の紹介	三九一	其の他	五

(一) 年齢及び配偶關係——タイピストの平均年齢はキツと高いであらう、とは想像されるところである。インテリ職業として而も相當の技術習得を必要とするものであるからして、勢ひ年齢は高くなつて来る。一番多いのは二十歳から二十五歳までである。

しかしその就職年齢を調べてみると、十七歳から十九歳までが一番多く、勤続年限は三年から五年までが多いといふことになつてゐる。

そして、流石に十五歳以下はないけれども、五十歳以上のものが一人居る。

タイピストの年齢

總 數	一、〇四八	三六—四〇	七
一六—二〇	二二八	四一—四五	六
二一—二五	六二五	四六—五〇	一
二六—三〇	一五五	五〇以上	一
三一—三五	三六		

次に配偶關係から観ると、タイピストの未婚者割合は九四・二一%である。これは他の職業に比して多い方ではない。

たゞ一般の事務員や交換手又は女工に較べるならば、いくらか多いようである。

既婚者の方をみると、殆んど子供が無い。子供があつても、三人を超えるものとは一人も無い。三人といふのが一番多いのだが、それでも僅かに一人しかない。

(二) 教育程度——タイピストとなるには、どれ位の學歴が要るのだらうか。どんな學校を出なければならぬのだらうか。こんな考へを抱いて、タイピストたらんことを將來に夢見てゐるものも多いことだらう。

タイピストは、その多くのものが、タイピスト學校を出てゐる。しかしそれまでの學歴としては、邦文では高等小學校を出ただけのものが可なりあるけれども、歐文の場合には女學校程度の學歴を経たものが多い。勿論それ以上の教養を得てゐるものも相當には在る。

タイピストの教育程度

總 數	一、〇四五	中等學校程度	七八七
學歷無きもの	—	大學、專門學校程度	六七
小學校程度	一九一		

これによつて観ると、中等學校程度の教育を受けたものが多い。タイピストの就職年齢を觀ると、十七歳から十九歳までのものが一番多いのであるが、これは丁度女學校を出た位である。女學校を出て、更にタイピスト學校に修業し、その

學校の手を経たり、親戚、知人の紹介によつたりして勤めに出るといふのが普通の途であるようである。

二 勤務・生計

(一) 給料及び初任給——タイピストの就職目的も殆んど「家計補助のため」なのである。またタイピストを憧れるその多くのものも、仕事の性質がやゝ高級に見える以外に、給料の比較的に高いといふことである。高給といふ點からいへば女醫や婦人記者といふものもあるが、それは可成り特殊なものであつて、未だ一般的なものではない。そこで、タイピストに就いては特に給料といふ點を詳しく観てみたいと思ふ。

本調査の結果によると、婦人従業者の中で最高給をとつてゐるものは、實に月給四百五十圓のタイピストである。有聲男子をして後に隱若たらしめる。これは、速記を兼務する亞米利加婦人タイピストである。けれどもこれは、例外中の例外であつて、その多くは、そんなに良いことはないのである。まづタイピスト一人平均給料は四十圓四十六錢となつてゐる。

これを雇主側からの報告(第四編参照)によると、タイピストの總平均は三十四圓となつてゐる。これを他の職業に比較してみるに決して高い方ではない。女醫(九五圓)、記者(七三圓)、外交員(六三圓)に比すれば、それは遙かに少い。また總平均三十八圓に比するも尙餘程低いといふ有様である。またタイピストの最低平均は二十八圓となつてゐる。これによつて観るに、タイピストにもピンからキリまでである。最高四百五十圓は夢のまた夢である。尤もタイピストの多くは、相當の學歷を持つて居るために、比較的の高い給料の分野に在るといふことは事實である。次にタイピストの給料をみるに、やはり三十圓から五十圓までが多く、殊に三十圓から四十圓までが一番多い。總數の

半分位を占めてゐる。左表によるタイピスト一人當り平均額は四十圓四十六錢となる。

タイピストの給料

總數	一、〇三六	七〇圓以下	三六
二〇圓以下	一一	八〇	一五
三〇	二二三	九〇	五
四〇	四五一	一〇〇	三
五〇	二〇九	一〇〇 超過	五
六〇	八八		

給料以外にもなほ手當、賞與、その他の収入がある。更にその収入總額を見よう。

タイピストの収入總額

總數	一、〇〇三	七〇圓以下	一三二
二〇圓以下	三	八〇	六四
三〇	六六	九〇	二四
四〇	一九一	一〇〇	二三
五〇	三二一	一〇〇 超過	二三
六〇	一五七		

これによると、一番多いのは四十圓から五十圓までである。丁度給料の場合に比較して十圓ほど多いのである。これを中心にした十圓間隔が比較的に多いことも、給料の場合と同じ歩調をとつてゐる。

では、タイピストの初任給は幾何であるか。

初任給で一番多いのは二十圓から三十圓までである。その次が三十圓から四十圓までである。七十圓以上の初任給をとるものは、百人に一人位である。左にタイピストの初任給を列挙してみよう。

タイピストの初任給	
總 數	一、〇三三
二〇圓以下	六八
三〇	四五
四〇	三九
五〇	八三
六〇圓以下	一一
七〇	五
八〇	三
八〇 超過	四

次に問題となるのは、昇給期間である。

初めどんなに高給をとつても、仲々昇らないのでは困るだらうし、また初めから薄給であつたのでは一層に昇給が望ましいことである。タイピストの昇給期間については、その總數二百十六人のうち、六箇月以内の者が三十七人、一年以内のものも最も多くて百三十七人、次いで二年以内が十三人で、それ以上のものは無い。なほ不定期昇給といふのが二十九人からある。

これは雇主側からの報告によるものであるからして、このまゝ實際に行はれてゐるものとは考へられない。たゞ一應の

参考にはなるであらう。右によると、不定期昇給を除けば、一年に一回位といふのが一番多い。半分以上を占めてゐる。以上給料に關して述べたところを、更に勤続年限等と思ひ合すれば、一層に明瞭となることと思ふ。

(二) 勤続年限——タイピストの勤続年限は、三年から五年までが一番に多い。その次が一年から二年までといふのである。

一體に婦人は勤続年限が短い、といふのが缺點である。これは雇主側にとつて殊に問題とするところである。従つて、幾ら本人が意氣込んで居つても、まづ先きを見越され、従つて待遇も悪い、昇給も遅い、といふ結果になるのである。

タイピストもまたこの例に洩れない。また殆んど總べての職業に於いても三年から五年である。たゞ店員や給仕だけが二年以下といふのである。

タイピストの勤続年限	
總 數	一、〇四四
一年以下	一一三
二	二二〇
三	一四七
五	二三八
七 年以下	一一二
一〇	六三
一五	一九
二〇	二
二〇 超過	一

(三) 就業時間——タイピストの就業時間は、八時間から十時間までが一番多い。八時間勤務とは云つても、時間外勤務とか居残りとかあるわけである。事務員は大體に八時間から十時間までが普通であつて、十二時間となるとグツと少く

なる。けれどもそれよりも八時間以下の方が更に少い。

タイピストの就業時間

總 數	一、〇四三	一〇—二二	一四二
六—八時	八三	二二以上	二
八—一〇	八一六		

(四) 健康状態——仕事が身體に及ぼす影響を見るに、タイピストは機械を使用するために、特に「肩のこり」や「眼の疲れ」といふのが多いであらう、とは誰れしも想像するところである。けれども、まづ大體に於いて「大したことはない」さうである。

タイピストの身體に及ぼす影響

總 數	九四七	精神の疲労	六
大したことなし	四一四	冷 へ る	五
影響なし	二五五	呼吸器を害す	四
眼の疲労	六八	手足腰の疲労	四
身體の疲労	六六	胃腸を害す	四
肩の疲労	五一	脚 氣	一
眼肩の疲労	四三	鼻咽喉を害す	一
頭 痛	六	其 の 他	一九

(五) 収入關係——収入の中心であるところの給料については、既に前項に於いて詳しく述べた。その初任給は二十圓から四十圓までが大多数であり、給料ではまづ三十圓から五十圓位まで、一人平均では四十圓四十六錢である。雇主側からの報告に據ると、平均三十四圓とある。

更に、給料以外の手当、賞與、或ひは家庭よりの補助等を包含せしめたる収入總額は、四十圓から六十圓位までが多いといふ結果になつてゐる。

手当については、これは色々な名が付けられてゐるが、まづ精勤手当、残業手当、住宅手当等を指すものである。家庭關係その他の事情からして、缺勤が多かつたり、残業の餘り出来ないことが多いために、概して婦人は手当が少いといふことが考へられる。そこで手当の「有る」といふものが、却つて「無い」もの、半分位である。手当としては、一箇月當り三圓から五圓までが最も多い。

次に賞與がある。これは現在のところ全く豫想される副収入であつて、或ひは給料の一部と見做さるべきものである。けれども昨今の不景氣の影響と、それから婦人であるといふことからして賞與は大體に於いて少いものと考へられる。

タイピストの賞與

總 數	一、〇二四	七圓 同	一一九
三圓 以下	五九	一〇 "	二三八
五 "	一〇九	一五 "	一七九
			一九五

二〇圓以下	九〇	三〇圓以上	一〇
二五	二四	無	一八四
三〇	三二	し	

この外にも、両親又は親戚等から補助を受けてゐるものがある。タイピストの多くはその目的が「家計補助」であるからして、決して現在自活して獨り行くといふのではない。従つて生活は共同的又は家庭的であるのである。勤務先の報酬以外に、家庭関係からの補助を受けてゐるといふのが普通である。語を換へれば完全に獨立したる婦人といふものは殆んど無い。

回答總數六十八人の中で、七圓から十圓までの補助を受けてゐるといふものが一番多くて十七人である。次が三圓から五圓までである。多くは小遣錢とでもいふのであらう。

収入の總額については、先きにも述べたところであるが、最も多いので三十五圓から五十圓までのところである。これより給料が昇るに従つて、その數は除々に減つて行くのである。けれどもタイピストは事務員と共に他の職業に比較して遙かに高給者に於いて數が多いが目につく。その詳細については、前項に既に述べたところである。

(六) 支出關係——支出の主なるものを逐つて調べてみよう。

まづ被服費である。本調査の結果による全體の平均給料額三十圓七十五錢のうち、被服費は五圓三十錢を占めてゐる。タイピストに於いては、平均給料四十圓四十六錢のうち、七圓二十四錢といふことになつてゐる。その割合は一割八分であるが、これは平均に比して少しく多い。けれども全體としては決して多い方ではない。被服費で多いのは、先づ三圓か

ら五圓、七圓から十圓となつてゐる。

次に食費と住居費とを見るに、殆んど總數の三分の一のものが十圓以下である。十五圓となり二十圓となるに従つて、グングン少くなつてゆく。併しまた六十圓、七十圓から八十圓を超えるものがあり、上には上があるものである。けれども、大體に於いてかくも少額ですむといふことは、自宅又は親戚知人に寄寓する者が多いからである。

次に家計補助額である。

タイピストの家計補助額	
總數	六一七
一〇圓以下	一四八
二〇	二二〇
三〇	一四〇
四〇	六七
五〇圓以下	三三二
六〇	八
七〇	一〇
七〇 超過	二
無	三九八

これによつて観るに、まづ二十圓位の家計補助をなすものが一番多い様である。給料三十圓から四十圓、その外に手當、賞與を入れて平均十圓増し位の中から二十圓程を家計補助に支出してゐるのである。これを見ても、いかに彼女等が職業婦人として街頭に進出する所以のものは、苦しい家計を幾分でも救ひ度いといふ心からであることがわかる。

次に交通費を觀るに、一番多いのは三圓から五圓である。大體に於いて一割位を支出してゐるようである。修養費については、比較的によく見える。一人平均では三圓六十錢となつてゐる。給料に對する修養費の割合は八分九厘、殆んど一割である。この割合を外の職業に較べてみるに、店員、看護婦、などよりは多いが、給仕、受付係、或ひは

ステイダグンサーなどよりは、遙かに少く、車掌と正に匹敵してゐる。

尤もこの修養費の内容については、はつきりしないが、中には新聞雑誌代をも含めたものが多いようである。次には修養費に反対なる娯樂費をみよう。娯樂の種類については先きにも既に述べたところであるが、まづ映畫、觀劇がその主なるものである。タイピスト一人當りの娯樂費平均は二圓九十二錢である。給料に對するその割合は七分に當る。これを他の職業に比較してみるに、決して多くはない。ところが十圓、十五圓、また十五圓以上となると、なかなか多い。十五圓以上といふものがなほ二人からある。

その次は貯蓄である。貯蓄の有るものは七百七十九人、貯蓄の無いものが二百二十九人、一人當りでは八圓九十三錢であり、給料に對する割合は二割二分、これを他の職業と比較してみよう。

給料に對する貯蓄額の割合比較

家政婦	三九・三九	事務員	二二・二二
小使	三七・一四	タイピスト	二二・〇七
炊事婦	三二・九五	店員	一七・〇二
外交員	二九・七九	女工	一三・八七
看護婦	二四・二九		

終りにのぞんでタイピストの、収入、支出の各項を通じて、最も多いところを拾つて一覽して見よう。

タイピストの収入、支出(最も多いもの)

収入	収入	支出	
収入總額	四五・五〇 ^円	被服費	三・一五 ^円
給料	三〇・三五	食費、住居費	一〇圓以下
手当	五・一七	家計補助	一五・二〇
賞與	七・一〇	交通費	三・一五
扶助	七・一〇	修養費	一・一三
其の他の収入	一一・三	娯樂費	一・一三
		貯蓄額	一・一三
		其の他の雜費	一一・三

第二節 電話交換手

ここに云ふ電話交換手は、普通の交換手の様に電話局に勤務するものではない。銀行、會社或ひは工場に於ける交換臺を預つてゐるところの電話掛を指すのである。

この交換手の職務は、實に産業の觸手とも云ふべきである。機敏に快活に、その耳と手とを働かせる。商店、銀行にとつては眼に見えないお客様を第一にお相手するものである。會社、銀行への入口でもある。第一線に立つ彼女等の職務はかく重いのである。

機械相手のことだから故障もあらう。ところが、それとは知らないで、ドナリ散らす人もある。けれども飽くまでも職務忠實に働かねばならぬ。

その多くは、家計困難なるべき職業の家から通つてゐる。次に彼女等の戸主の職業を調べ、その學歷、その給料、また

その希望、感想などにも特に耳を傾けようと思ふ。

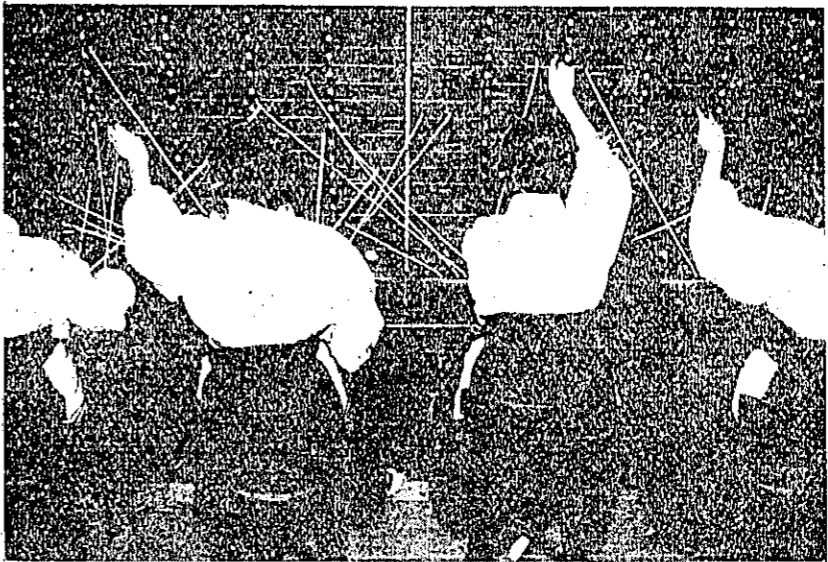
一 身 上

(一) 戸主又は夫の職業——電話掛も事務員であるからして、その項に於いて述べたところと大差はない。けれどもその職務の性質上、他のものは餘程異つた特殊技能を要するのと、他にはその沿革が舊いといふことなどからして、特に選んだわけである。まづ戸主又は夫の職業について述べてみよう。

交換手の戸主又は夫の職業

總 數	七六七
公務自由業	一九二
工 業	一八九
商 業	一〇〇
交 通 業	五九
原始生産業	一一
其他の有業者	二九
無 業	一八六

これによると、最も多いのは公務自由業に属するものである。その大部分が、いはゆる勤め人であつて、官吏又は會社員といふのである。官吏、公吏又は官公廳の雇傭員が一番多いのであるが、これを除くと、教員、神主、及び著述家な



どが見える。

これに次いで工業である。このうちでは、土木建築請負の二十一といふのが群を抜いて多い。その次が大工、裁縫師、建具、指物師となつてゐる。

その次が無業の者であるが、失業者といふのは四人に過ぎない。その次が、商業であるが、このうちでは物品販賣といふのが一番に多い。店員賣子、飲食店、露店等がある。

これらを多いもの順に通覽してみると、

書記的職業	一一四	官 吏	三三
物品販賣業主	六三	土木建築請負	一一

といふ風になる。

(二) 年齢——電話掛もまた特殊の事務員である。だから年齢に於いても事務員やタイピストと同じく、二十歳以上二十五歳までが二十歳前よりも多いといふ點に於いて、同じ傾向をとつてゐる。すなはち、女工、店員、給仕等は二十歳前の方が多いといふことで明瞭に對立してゐる。

交換手の年齢

總 數	八三三	二二—二五	四四七
一五歳以下	三	二六—三〇	八二
一六—二〇	二五八	三一—三五	二二

第二章 技術的業務

第三編 業務別に観たる職業婦人

三六一四〇	一四	四六一五〇	三
四二一四五	三	五〇以上	一

交換手の年齢は、高いものでもなかなかその数が多い。これは多くのものが、交換局に於いて修業後、更にかゝる商事の會社、銀行に電話掛として勤務するに至るものが多いせいであらう。

交換手の就職年齢

總數	八三一	一三一二五	一一
一三歳以下	三八	二六一三〇	六
一四—一六	五一八	三一一三五	三
一七—一九	二二三	三六一四〇	二
二〇—三三	四〇		

これによつても判るところであるが、就職年齢といふものが極めて若い。十四歳から十六歳までが、約七割を占めてゐる。次いで配偶關係を見るに、未婚者が大多数である。他の業務に比較してみると未婚者の割合がそれほど多い方ではない。むしろ女工と共に少い方である。云ひ換へれば、交換手の既婚割合が多いといふことになる。

次に子供の有るものを見るに、既婚者八百十二人の中で僅かに十五人である。子供數を見るに決して多い方ではない。大體が一人で、三人有るといふのがただ一人に過ぎない。

(三) 教育程度——學歷については、小學校程度が、中等學校の四倍に餘り、學歷の無いものは一人もない。事務員、タ

イピストは中等學校の方が多といふのと一寸對照となるのである。

けれども、また専門程度以上のものが二人からある。この外に小學校程度の者が六百六十五人と中等學校程度が百六十二人となつてゐる。そうしてこの總數は八百二十九人となる。なほこれらの中には卒業生ばかりでなく中途退學者をも含めてゐるのである。

二 勤務・生計

(一) 就職の方法——少しく順序を替へて、まづ就職の方法から観てみよう。先きにも述べたやうに、こゝにいふ電話交換手は、いはゆる私設交換臺を預る電話掛を指すのである。これに至るには、多くは交換局に於いて修練した経験のあるものであらう。

こゝには、直接に現在の勤務先に就職するに至つたその方法を述べるのである。

電話交換手の就職方法

總數	七九六	前勤務先の紹介	一五
親戚知人の紹介	六七九	學校の紹介	九
募集廣告	六五	直接面談	一
職業紹介所紹介	二七		

(二) 勤続年限——雇主側から云はせると、婦人は勤続年限が短いといふ。これがまた婦人の勞働條件をば低下せしめる原因である。

殊に電話の交換手に於いては、直接に機械にたづさはる激務であり、時間外勤務なども多くなるといふ傾きがある。かうして、勤続年限も餘程短いと想像される。

交換手もまた他の事務員、タイピストと同様に、三年から五年位までが一番多い。

電話交換手の勤続年限

總 數	八三三	七年以下	一〇三
一年 以下	一八〇	一〇	三八
二	一七九	一五	二三
三	一一三	二〇	七
五	一八九	二〇 以上	一

(三) 就業時間——一日二十四時間を三つに分つて、その三分の一を働いて、三分の一を寝るのが理想だといはれてゐるが、とも角も一日八時間労働といふのが標準になつてゐる。ところが、この調査の結果によると、まづ九十八パーセントは十時間近い勤務である。

尤も、之には時間外を含む實際の就業時間を現はしてゐるのであらう。また電話交換手の業務の性質からして、多くの他の人よりも早く出て、而も遅くなる傾向があるであらう。時間外など、交換臺に唯獨り居残るのは困るといつて、時間外勤務の廢止を要望してゐる。なほこの點については仕事に對する希望の項をも参照されたい。

電話交換手の就業時間について、六時間までの者が六人、八時間までの者が四百三十七人、十時間までが三百六十八人、十二時間までが十三人である。これ以上のは流石に無い。右の總數は八百二十四人となる。

(四) 公休日——を待つ心は、砂漠にオアシスを望むこゝろだ。次に交換手の一箇月についての公休日を一瞥してみよう。

電話交換手の公休日(一箇月)	
總 數	八一四
一 日	六
二 日	七二
三 日	九九
四 日	三〇一
五 日	三三二
六 日	三

これによると、四日と五日が最も多いことになる。

(五) 健康状態——仕事が身體に及ぼす影響は、電話交換手の如く機械に常に従事してゐるものにとつては殊に大きいものである。

交換手の仕事の身體に及ぼす影響

總 數	六九三	眼の疲勞	二
大したことなし	六一三	肩の疲勞	二
頭 痛	二七	冷 える	二
精神の疲勞	二五	胃腸を害す	二
鼻咽喉を害す	七	其の他	八
身體の疲勞	五		

(六) 給料及び初任給——交換手の初任給を見るに、二十六圓以上三十圓以下が断然多い。この程度のもものが、どの職業を通じてみても多いのである。次が二十圓から二十五圓までに下る。五十一圓以上となると、まるで少くなる。もつとも七十一圓から八十圓以下の初任給のものがあることはあるが、實に異數である。

次に、給料を見るに、八百十四人の一人當り平均給料は三十五圓七十五錢である。そして、三十圓以下のものが一番多い。タイピストは、それより五圓方多いところの三十五圓以下といふのであつた。けれども、こゝいふのは珍らしい方で、多くのものは交換手と同じように、三十圓以下である。そして更に低い勞働に服するもの、例へば炊事婦、給仕は勿論のこと、車掌までもが二十五圓以下が一番多いのであるといふことは一寸注目し値するところである。

しかし、高給の方を見るに、これまたタイピストに負けない。八十圓、九十圓、百圓といふところも、數名づゝあるといふ状態である。たゞ流石に百圓以上のものはなかつた。

交換手の給料	
總數	八一四
一五圓以下	五
二〇	二四
二五	六〇
三〇	二二六
三五	二〇四
四〇	一二四
四五	六七
五〇圓以下	三三
五五	二一
六〇	一五
六五	一一
七〇	五
八〇	一一
九〇	四
一〇〇	三

(七) 其の他の収入——給料以外の収入では、まづ手當である。交換手はその仕事の性質上、殘業又は時間外勤務といふものが多い。タイピストでは手當の「有る」のは、「無い」もの、半分位であるのに反して、交換手は「無い」ものが四百五十一人で、「有る」ものが三百五十一人である。比較的に多いわけである。

けれども、その手當額は必ずしも多いわけではない。彼女等の希望又は感想の中にも、多く現はれて居るところである。

交換手の手當及び賞與			
	手當	賞與	手當
總數	三五一	六五一	一〇圓以下
一圓以下	四〇	一七	一五
三	一三七	八七	二〇
五	七四	一三三	三〇
七	三六	一〇〇	無
			四五一
			一四九
			三三
			一六四
			一〇六
			三三
			一一

手當及び賞與以外にも、家庭からの扶助がある。これは一寸おかしき事で、交換手として働く就職の目的が「家計補助」であり乍ら、却つて家庭よりの扶助を受けるといふのである。けれども、多くは自宅や親戚に住んで、食費、住居費をこと更に支拂つてゐないのであるからして、こゝに云ふ「家庭よりの扶助」といふのもさう大した意味のものではない。小遣といふ位であらう。その給料全部でも、彼女一人の経費を支拂ふには困難であらう。結局、この家庭よりの「扶助」といふのは、支出と平均させる意味のものに過ぎない。

そこで、電話交換手が、勤務先で得る給料、手當、賞與と、家庭よりの仕送り、又は小遣等を含めたる彼女一個の總收入額を観るに、次の如くなる。

電話交換手の収入總額

總數	八〇五	七〇圓以下	四三
二〇圓以下	一六	八〇	二七
三〇	一〇一	九〇	七
四〇	二七二	一〇〇	六
五〇	二二五	一〇〇超過	七
六〇	一〇一		

(八) 支出—収入に對する支出關係をみるに、各項のうち最も多い部分を拾つて觀ると次の如くなる。

電話交換手の支出(最も多いもの)

被服費	三二五 ^円	修養費	一三 ^円
食費及び住居費	四〇一 ^円	娯樂費	一三
家計へ補助	一五二〇	貯蓄	一三
交通費	三一五	雜費	一三

三 仕事に對する希望及び感想

(一) 仕事に對する希望—婦人は概して遠慮勝ちのせいか、切角仕事に對する希望を求めてもなか／＼云つて呉れない。交換手八百三十四人中、無記入が五百五十人にも餘る。「希望無し」といふもの百人計り、殘る百六十六人程が僅かに希望欄

に記入したに過ぎない。多種多様な希望を假りに分類してみるに、まづ仕事そのものに對するもの、周圍又は御客に對するもの、待遇に關するもの及び其の他の四つとなる。

交換手の仕事に對する希望

仕事に關するもの	待遇に關するもの
異つた仕事を	待遇の改善
一	八
客に好感を與へ度い	設備の改善
一五	六
愉快に	地位の昇進
三〇	二
忠實に	給料の増加
五五	二
周圍、環境に關するもの	勤務時間の嚴守
上役の理解	一
五六	

次に、主なる希望をば直接の聲に聞いてみよう。

電話交換手の希望(例)

- 1 常に明るく氣持よく身體の續く限り務める事を希望致します。(二十四歳、藥種商勤務)
- 2 技術の正確と精神修養に努めて電話交換の圓滑を計り度いと思ひます。(三十五歳、新聞社勤務)
- 3 唯、誠意。(二十五歳、土地會社勤務)
- 4 電話を使用する皆さんが、もう少し私達の仕事に理解を持つて戴き度い。午後六時以後の居残り廢止に願ひ度い。

(二十五歳、土木建築會社勤務)

5 只今はお店のひまなため電話も用少く、休息を澤山頂いてゐます。年末やお盆など大多忙の時と平均がとれる工夫を望みます。(二十九歳、インキ材料商勤務)

6 自分等の職業をもつと社會の人に理解して貰ひ度し。(二十三歳、工業會社勤務)

7 掛ける方も掛けられる方もつとやさしくして下さる事。(十六歳、銀行勤務)

8 電話では言葉使ひ一つで感情にさわるものですからお互に氣をつけたいと思ひます。(二十四歳、海外移民會社勤務)

9 機械的の仕事ですから別に希望等なく、就業中及び休憩時の保健に留意した室内設備を完全にして貰ひ度い。(二十二歳、土木建築會社勤務)

10 残業の時九時頃まで居る場合も少し早く歸して貰ひたい。残業の場合はビルディングの三階に一人きりになる故女子を夜遅く(遅い時は別段の用がなくも十時頃になる時もある)まで就業させる事は大いに會社として反省して男子と同様の取扱を廢止して頂きたい。若し萬一間違等ある場合は大いに會社は責任を持つて頂きたい。(二十三歳土木建築會社勤務)

(二) 仕事に對する感想

イ 一番楽しく思ふこと 仕事に對する感想も大體四つに分けて、仕事に關するもの、周圍又は環境に關するもの、待遇に關するもの及び其の他となる。

一番楽しく思ふことについて夫々直接の聲を聞くことにしよう。左にその主なるものを掲げる。

1 機械に故障などなく圓滑に交換出來た時。(二十四歳、移民投資會社勤務)

2 何の間違も無く一日を朗らかに仕事の出來た時。(二十五歳、土地會社勤務)

3 一番仕事のいそがしい時ですね、どうせ働くなら張合のある方がいゝです。(二十歳、銀行勤務)

4 目にも見えず言葉にも現れない苦心を相手方に理解された時。(三十五歳、新聞社勤務)

5 親切にしてあげて、たつた一言有難うと言はれた時。(二十二歳、電力會社勤務)

6 好い聲の人を相手にお話し致す時。(十九歳、信託會社勤務)

7 仕事の合間に讀書をする事。(十六歳、銀行勤務)

8 夕方家に歸る事が一番楽しい。(十九歳、土地會社勤務)

9 たのしく思ふ事など一日も有りません、それでいやにも思ひませんが、私の今はどちらでも有りません(社の爲め)
(二十歳、保險會社勤務)

ロ 一番嫌に思ふこと

1 仕事のひまな時は間がぬけた様でいやなものですよ。(二十歳、銀行勤務)

2 忙しい時に大きな聲で怒鳴られる事。(二十三歳、土木建築會社勤務)

3 自分の使用して居る機械の悪い時。(二十二歳、土地會社勤務)

4 充分なるサービスの出來ぬ時。(身體が悪いときと家庭に心配ある場合)。(二十六歳、百貨店勤務)

5 上役から蔭口をされる事。(二十七歳、化粧品店勤務)

6 朝からしかられる事。(十九歳、機械販賣會社)

7 機械の事故ある故色々間違ひもある。それを理解もなくおこる時。(二十四歳、銀行勤務)

- 8 イツモく怒鳴られる事です、矢張理解して下さらないんですね。(十七歳、百貨店勤務)
- 9 忙しい時、グツグツ云はれる時。(二十二歳、土木建築會社勤務)
- 10 無理解な非紳士、非淑女にあふとき。(二十歳、信託會社勤務)
- 11 罵られる事。(三十六歳、銀行勤務)
- 12 下品な事をいはれる時。(十八歳、銀行勤務)
- 13 交換手なるが故の侮辱の目又は言葉。(二十四歳、銀行勤務)
- 14 理解がほしい。修養が出来ない。(二十一歳、物産會社勤務)
- 15 仕事の上では嫌な事はありませんが通風、保温設備不完全故就業中不愉快に感ずる時があります。(二十二歳、土木建築會社勤務)
- 16 男子と同類を望まぬも多忙時の居残り手當のないこと等です。(二十四歳、機械製造會社勤務)
- 17 當社には婦人が一人も居りません、一番嫌に思ひます。(二十一歳、藥品販賣店勤務)
- 18 將來を考へること。(二十歳、印刷會社勤務)

第三節 製圖手

婦人の特有なる手先きの器用を利用して、新しい職業分野を開拓したものにこの製圖手と圖案手とがある。相當に専門的な智識と、緻密な頭腦とを有するものであり、餘りパツとした派手な仕事ではない事などからして、まだ一般には理解されてゐない憾みがある。けれども、それだけまだ充分に伸びる餘地があるのであつて、凡らく將來を豫期されたる健全なる職業の一つである。事務所勤務するのが普通だが、また家庭に在つても出来る職業の一つだと云。

本調査の對象となつたのは、勿論前者である。勤務先が大體に於いて限られたものであるが、それを分類してみると次の如くなる。

製圖手の勤務先	
業	數
總	四二
工	四〇
機械器具製造裝置業	一八
精巧工業	一一
土木建築業	一〇
瓦斯、電氣、水道業	一
商業	二
銀行信託業	二

一身 上

(一) 年齢——製圖手の年齢を調べてみると次の如くにして、大體十五歳から二十五歳であるが、そのうちでも二十歳以下が一番多い。

製圖手の年齢	
總數	歲
四二	二六—三〇
二二	三一—三五
一七	一七



その多くは高等女學校を出てから、工學校の製圖科を終つた位の年頃であるが、この調査によるとあまり年配の人は少ない。一番年を取つてゐるものと雖も三十五歳以下である。やはり他の事務員と同じ年配で、また殆んど同額の給料を貰つてゐるに過ぎないのである。

これを以つて観るに、製圖手とは云へ、未だ獨立的地位を確保してゐるものとは思はれない。

(二) 教育程度——まづ製圖手の教育程度をば學歷によつて觀よう。

製圖手の教育程度

總 數	四二	商業及實科女學校	二
全然學歷無きもの	一	高等女學校	五
尋常小學校	一	特殊技藝學校	一二
高等小學校	一六	大學専門學校	五
補習及夜間女學校	一		

これによると、總數四十二人のうち十六人の高等小學校が一番多い。それに次いで十二人の特殊技藝學校であるが、これは大體に於いて製圖を教ふる處である。而もこの様な技藝學校を経たものも多くは中等學校を出てゐるのである。

二 勤 務

(一) 就職の方法——右に述べたやうに、製圖手となるには多くはこの種の特殊技藝を教ふる工學校の製圖科の如きものを出るのであるが、それ以後現在の處へ勤めるに至つたその就職の方法を調べて觀るに、

製圖手の就職方法

總 數	四一	職業紹介所	一
學校の紹介	二二	募集廣告	一
親戚知人の紹介	一八		

の如くなる。これによると學校の紹介と親戚知人の紹介とが大體を占めてゐる。

(二) 勤続年限——製圖手といふ比較的限られた、しかも特殊な職業に於いては、勤続年限が長からうとの豫想を持つのであるが、實際この結果によると、左程目立つたところは見えない。

製圖手の勤続年限

總 數	四二	五年以下	一四
一年以下	四		
二	九		
三	八		

これによると、五年以下三年又は二年といふところが多く、大體に於いて他の事務員と同じ位である。而して十年以上は一人もない、といふことは一寸注目すべきところではないか。未だこの職業を永続的にやるものがないのである。

(三) 就業時間——製圖手の就業時間はどの位だらうか。本調査の結果によると、その總數四十二人の中六時間から七時間のものが三人、七時間から八時間が三十二人、八時間から九時間が四人、九時間から十時間が二人、十時間から十一時間が一人といふ工合になつてゐる。

まづ八時間以下が一番多くなつてゐる。これは他の業務に比較して大した差異を認められない。大體に於いて同じである。

(四) 仕事に對する希望——製圖手に限つたことではないが、仕事をなすに「愉快」にやり度いといふのが普通である。これは尤もなことであらう。

製圖手の希望

總數	一一	世人又は御客の理解	一
技術上達又は無過失	一	待遇の改善	二
仕事を愉快に	六	自己將來を計り度し	一

概して希望欄に何も記載しないものが多い。また希望なし、といふものもあるが、その數は可成り多數に上るといふことは種々なる原因もあることだらうけれども、注意すべきことと思ふ。例へば

希望有る者の數	希望無き者の數	希望有る者の數	希望無き者の數
女工	九五七	電話交換手	一七六
事務員	九三六	給仕	一四一
店員	五九九	製圖手	一一
タイピスト	三六六		三二
			六八二

これによつてみるも、希望欄には餘り記入してないことになる。

(五) 仕事に對する感想

イ、一番楽しく思ふこと

總數	二五	技術上達	四
好きな仕事	一	上役の理解あること	一
能率の上るとき	六	同僚間仲良きこと	一
機械良好	二	自己が認められたとき	二
難しき仕事完成	五	家に心配なきこと	一
豫定通り完成	二		

といふ工合で、仕事に關することが多い。仕事がちちんと進むことほど嬉しいことはないであらう。

ロ、一番嫌に思ふこと

總數	一九	叱られたとき	三
單調な仕事	六	上役の無理解	二
出来上り不良	三	仕事が多くて急がれること	一
仕事が無いこと	三	同僚間の不和	一

といふ工合で、やはり大體に於いて仕事に關するものである。

三生計

(一) 收入——製圖手の收入を觀るに當り、まづ給料では最高が六十圓、最低十八圓といふ工合で、數の多いのは二十五圓から三十五圓位のところである。一人平均は三十四圓二錢となつてゐる。